

令和5年度事前評価 研究評価委員会の評価結果および総合評価

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果						総合評価		
		緊急性・必要性	研究計画の適切性			成果の可能性の活用	評価	意見	評価	意見
			研究項目	科学的妥当性	実施体制の妥当性					
ブロッコリー省力生産体系の構築に向けた機械一斉収穫技術の確立										
○十勝農業試験場 (R6-R8)		3.3	2.9	3.0	3.3	2.6	B	共同研究機関の製品開発に限定されることなく、重点研究の成果として他作物への応用展開なども意識して、研究計画を精査のうえ進めること。開発する栽培技術の科学的機作を明らかにし、得られた成果がブロッコリーの省力生産技術として道内に広く普及するように研究を進めること。	B	令和6年度から実施する。評価委員会の意見を踏まえて取り組むこと。
北海道農産物の物流を補強する低温酸化触媒の開発とそれを用いた鮮度保持システムの構築										
○工業試験場、 北方建築総合 研究所 (R6-R8)		3.9	3.1	3.4	3.3	3.5	B	混載輸送の際に想定される障害ならびに低温下におけるガス吸着による性能の低下に対して新触媒の性能目標を設定し、効果的な物流システム設計に必要な輸送条件（季節、コンテナ体積・温度、農作物の種類・量・梱包方法、触媒の量、空気流量など）を十分に検討すること。確実に成果を得て、広く展開させるため、専門研究機関や輸送関係者と連携して研究を進めること。	B	令和6年度から実施する。評価委員会の意見を踏まえて取り組むこと。
防災まちづくりにおける防災・減災対策評価ツールの開発 (旧課題名：自然災害への防災対策導入による都市機能変化を評価するツールの開発)										
○北方建築総合 研究所 (R6-R8)		3.3	2.6	2.6	3.3	3.4	B	道内市町村による国土強靱化計画等の策定へ貢献することを視野に、本研究における都市機能評価の位置づけを見直すとともに、研究目的と研究期間内に達成しようとするアウトプットを明確にし、適切な研究課題名を設定して研究を進めること。	B	評価委員会の意見を踏まえ研究計画および課題名を適正化したうえで令和6年度から実施する。市町村がwebアプリケーションツールに求める都市機能評価の内容を十分に調査・把握してから開発を進めること。